

目 次

I . 総括研究報告	
心理学と情報工学を利用した食品リスク情報コミュニケーションツールとその評価手法の開発	1
和田有史	
II . 分担研究報告	
1 . 農薬に関する表示による理解の支援の効果	3
和田有史・木村敦・小川緑	
2 . 放射性物質に関する消費者の情報認識と認知特性に関する調査	7
和田有史・木村敦・小川緑	
3 . 消費者態度の類型化に関する研究	11
木村敦・和田有史・村越琢磨	
4 . 対話型学習ツールの開発	14
湯浅将英・小川真規・和田有史・小川緑	
III . 研究成果の刊行に関する一覧表	17
IV . 資料	
1. 和田有史, 食認知への心理学的アプローチ, ソフト・ドリンク技術資料, 169, 19-34, 2013.	
2. 村越琢磨・久雅子・増田知尋・和田有史・長田佳久, 単一特徴への注意が変化検出に与える効果, Vision, 25(1), 8-19, 2013.	
3. 湯浅将英, 田中一樹, 土肥紳一, 大山実, 授業アンケートの自由記述からの評価情報抽出, 日本工学教育協会論文誌, 60(6), 90-102, 2012.	